

大宮町学校再配置検討分科会最終報告

1. はじめに

京丹後市大宮町の地域には、現在、小学校が3校、中学校が1校あります。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の教育内容や教育活動をめぐる諸課題、さらには立地上の環境等諸条件や耐震基準等からみた施設設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、様々な教育的観点から、今後の本町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討を行った。

2. 分科会開催経過（委員数12人）

出席者数

第1回分科会	平成19年	7月12日（木）	12人
第2回分科会	平成19年	9月13日（木）	12人
第3回分科会	平成19年	10月25日（木）	10人
第4回分科会	平成19年	11月28日（水）	11人
第5回分科会	平成20年	1月17日（木）	11人
第6回分科会	平成20年	3月6日（木）	12人
第7回分科会	平成20年	3月27日（木）	11人
第8回分科会	平成20年	4月17日（木）	10人

3. 分科会における議論

(1) 大宮町は既に一度統廃合を行なっていることを前提に、各学校の現状と課題を踏まえ学校の望ましいあり方について検討を行なってきた。その中で大宮町の再配置についての方向性が4つの案として出てきた。

(2) 4つの案について、各学校の配置、規模、先々のこと・地域のこと、子どもが学ぶ条件等の観点から検討を進めた

第一案：再配置は必要なし

ア 大宮町は30年前の統廃合があつて今がある。規模の違いはそれぞれ競い合うことや、上下の強いつながりや助け合いといったメリットとして生かされているので現状のままで良い。

イ 小学校は地域とのつながりが重要だと思う。財政的なことを言われれば、市民

の負担も考える必要があるが、大きい小さいだけでの統合は納得できない。将来を担う子どもや地域のことを考えると現状の配置が必要ではないか。

ウ 地域が廃れることに歯止めをかけたいという気持が強く、学校が地域に残って欲しい。

第二案：第一小学校は現状維持とし、第二小学校と第三小学校の2校の再配置

ア 現状のままでは、第二小と第三小学校の維持に財政上相当の負担がかかる。一つにまとめてそこに予算をかけた方が良い。

イ 第三小学校では児童数名の修学旅行に複数の教員が引率している。修学旅行一つを取っても、町内で児童数のアンバランスがある。何とか解決できないものかと思う。

ウ 親の立場では地域のことをいろいろと考えるが、統廃合経験者として、子どもの立場では置かれた環境への順応性が高く何の問題も無かった。

エ 学級の適正人数は何人なのかといった問題があるが、多くの友達と出会い成長することはいろいろなことを経験するチャンスが多いのではないかと思う。少人数過ぎると経験が少なくなるのではないかという不安がある。

オ 通学の方法・安全が保障されるのであれば、第二、第三小学校で150人程度の規模の学校になり人数としては適正な人数ではないか。

第三案：第一小学校の分割

ア 規模が大きくPTA活動等が進めにくく、分割することも考えられる。

イ 全国的にみればもっと大きな学校はあり、第一小の分割は現実性が乏しいと感じる。

第四案：大宮町内1小学校、1中学校

ア 1校にするという事は、第一小学校は耐震補強を済ませたばかりで増築しかない。しかし、PTAが集まる時も大変で学校行事等でも支障をきたす問題が多々あり、既存の施設を利用する1校案は無理。

イ 長い目で見れば1校にということになるのだろうがそれはもう少し子どもの数が減った段階で考えたらどうだろうか。

4. 検討結果（論議の到達点）

8回の検討分科会を開催する中で、地域から学校がなくなることへの危機感が伺

える意見が度々出てきた。それは何度議論を重ねても打ち消すことのできない思いである。しかしいつまでもそうあり続けることは難しい。

一方、適正人数の中での子どもにとってより良い環境について議論する意見も多く出てきた。財政的な問題も踏まえ、概ね段階を追った統廃合ならばやむを得ないといった意見もあった。

結論として、委員12名の意見を一つにまとめることは難しく、大宮町の検討結果を下記の2案併記とする。

- (1) 大宮町は既に統廃合を行っているので、現状では再配置はしない。将来的に現状より児童数が減少した段階で再配置をする。
- (2) 大宮第一小学校は現状どおりとし、第二小学校と第三小学校2校の再配置を行なう。

5. 検討委員会への提言・要望等

再配置に当っては、通学の方法・安全の確保を必須とし、地域住民にわだかまりが残らないよう準備段階を十分に設けていただきたい。

京丹後市大宮町学校再配置検討分科会